

第3回 浦河町総合計画審議会議事録

開催日時 平成28年12月7日(水) 10時00分～11時30分
開催場所 浦河町役場 2階 大会議室
出席委員 17名(早坂誠会長、小林司会長職務代理者、武田宗務委員、神原大輔委員、菅正輝委員、齋藤善厚委員、富田貴憲委員、新保雄司委員、富永孝幸委員、木内稔委員、上田正則委員、上新雅人委員、小林孝範委員、津澤静子委員、小林美代子委員、村下知宏委員、杉山綾子委員)
欠席委員 7名(高村祐太郎委員、遠山寛委員、土谷進委員、濱谷雅樹委員、永田善美委員、三浦敦子委員、野上由佳委員)
浦河町出席者 2名(柳谷企画課長 葛西企画課主幹)

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 審議

資料1：第7次浦河町総合計画基本構想(案)について

資料2：第7次浦河町総合計画将来像(案)について事務局より説明

【A委員】 3ページ(2)人口の流出について、「高校生の意向調査では～」の赤字部分、元データを見てないので、このデータの意味がわからない。

【事務局】 高校生の意向調査では、将来浦河に「戻りたい」「戻りたくない」「わからない」が3分の1ずつ程度。だいたい4割程度は「戻りたい」意向はある。だけど、残りの3分の1は「戻りたくない」「わからない」。

【A委員】 そのうち、「魅力がない」と答えた7割が「(浦河に)戻らない」。その別項目で「魅力がない」というような回答した人のさらに「戻りたくない」というデータをとっているということですね。

【事務局】 そうですね。去年の地方創生の総合戦略をつくる段階でとった高校生へのアンケートをもとにつくっています。

【A委員】 たぶん「わからない」と言う回答もあったと思いつつ、4割と7割という回答・数字だけがでていたので、ちょっとわかりづらい。

【B委員】 基本構想について、基本計画の5つの政策の大綱があるが、書かれていることがどの町でもあてはまる内容なのかなと感じた。もう少し浦河らしいアプローチを盛り込んでもいいのでは。

浦河らしさとの一つが風とおしの良さ。よそから来た人を奇異の目で見ることなく、ウェルカムな体制というのが、ひとつ大きい特徴だと思う。人口減少自体、世の中全体で起こっていることが、その中で、もう少し前向きに、どうまちづくりをしていくかということが大事になってくる。

例えば「郷土愛に満ちた人を育てる」というよりも、浦河に今いる多様な方々の活力を活かすだとか、コミュニティをつなぐだとか、こちらコミュニティの話と人材育成、両方だと思ふ。多様な人の可能性を認めるだとか、活かすだとかそういったアプローチで考えてもいいのかなと思ふ。たぶんこれから日本全体で、外国人移住者を受け入れるのか、受け入れないのか、そういった議論がでてくる。浦河で、移住推進をさらに進めて、外国人もウエルカムな体制を作るといふようなことも含めて。そういった具体的なことをあげないとしても、風通しのよいコミュニティづくりをするとか、多様な人を受け入れるとか、そういったことがあってもいいのかなと。

「健やかに暮らせるまちづくり」について、最後にある「障がいのある人もない人も、すべての町民が～(略)～生涯にわたり充実した生活を安心して送ることができる～(略)～」すごくいい文章だと思ふ。「高齢者が活躍できる」とか、そういった前向きな文言があってもいいのでは。

社会保障の負担がこれから増えていくなかで、いかに医療、介護に頼らないかたができるような環境をつくっていくかだと思ふので、健康に過ごせる寿命が延びるとか、活躍できる時間を伸ばしますよといふのがあってもいいのかなと思ふ。

最後の「みんなで作るまちづくり」の「広報・広聴活動の充実」について、今、いちご農家さんも独自の取り組みをされていたりですとか、子育てグループが独自にイベントをやったりですとか、住民単位の新しい活動や産業づくり、商品開発などがたくさん起こりつつある状況。

市民団体、住民団体、あるいは農業を含めた民間の産業団体だとか。そういった方々の活動を支援しますとか、そこと二人三脚でやっていきますといふ文言があってもいい。

基本計画、政策Ⅰの施策②「子育て支援の充実」なんですけど、将来像の部分で産婦人科がありますといふのがPRのひとつだったと思ふんですけど、日高管内で。子育て支援の部分で施策の中でいくと、政策Ⅱに入ると思ふが、医療の分野に入ってもいいのかなと。

全体通して、やっぱり浦河を外に発信したとき、馬だと言われることが多いので、軽種馬だけじゃなくて、乗馬も含めて、馬の活用や、ホースセラピーなど、レジャーとしての乗馬、競馬、地場産業も含めて、もう少し盛り込んでいいのではないかと感じた。

【A委員】 P7の政策Ⅲ「活力を生み出すまちづくり」の赤字で記載のところ「多くの観光客を誘致するためには、鉄道の存在は欠かせません」とあるが、これはこれで間違いなことだが、逆にJRの問題はナーバスな問題とは思いつつ、逆に鉄道がなければ、観光客は誘致できないのかと。JRが走っていないから観光客来ないんだといふ訳に使うつもりは全くないので。そういう意味で、ここまで書くのはどうなのかなと思ふ。確かに観光客誘致には鉄道があった方がいいことは間違いがないが。

【事務局】 もう少し柔らかい表現にします。

【会長】 今回の意見をもう一度検討してもらって、文言の変更を考えて、みなさんに提示する。

【D委員】 日高線の復旧について、高齢者ドライバーの事故が全国で相次いで、高齢者の免許返納、それに対し、返納後の交通手段としてのJRについての記載があってもいいのでは。

8ページ最後の結びの「浦河町が一丸となった」といふ表現に違和感がある。

【B委員】 JR日高線も産業のためのインフラというより、暮らしのうえで、住んでいる場所のインフラとしてちゃんと守っていく必要がある。

基本計画、政策IV「快適な暮らしを支えるまちづくり」の部分に、交通という言葉が、地域内交通という文言があるが、高齢者ドライバーが免許返納したあと、日高線だけじゃなく、地域内で買い物や通院など、どうやって生活を続けていくか検討課題になっていく。インフラのひとつとして地域内交通、地域外でも日高線含めての交通、高齢者も障がい者も含めて、安心してつかえる交通網の整備が必要。

【会 長】 地域内交通については、担当課で去年一年間いろいろやってきたこともありますので、それを含めて。今、みなさんからいただいた意見をふまえ、再度この内容について討議していきたいと思う。資料2の第7次浦河町総合計画将来像（案）について、ご意見をいただきたい。

【事務局】 前回の審議会に出ていたキーワードを参考にまとめた。一番多くでてきたのは「いきいき」という言葉。他にご意見があれば。

【会 長】 もし今日できれば、この3つの中から将来像（案）を1つ決めたい。選び方につきまして、何か意見があれば。

【A委員】 他の意見に流されるので、意見をとらずに決をとって、半数いかなければ上位2つでもう一度。

【会 長】 今、意見のあった多数決でよろしいか。それでは、出席者が15名なので、8名以上が過半数になる。

(A案：10委員、B案：4委員、C案：なし)

【会 長】 最終的にはA案「だれもがいきいきと輝けるまち 浦河」に決定でよいか。

それでは、第7次浦河町総合計画将来像につきましては、「だれもがいきいきと輝けるまち 浦河」ということで決定します。

次に、資料3基本計画(案)について事務局の方から説明お願いいたします。

(資料3：第7次浦河町総合計画基本計画（案）について事務局より説明)

【C委員】 目標値について、この施策1に対しての目標値だけだと、細かい評価がだせない。高校生しか対象になっていないが、他の子育ての人たちにもアンケートをとってもう少し細かくそれぞれの項目に対しての目標値をつけていかないと、評価もできないし、不足部分もある。

【事務局】 明確に指標として、だせるものがあればいいんですけど、なかなかそういうものがない場合もあるので、次回アンケートをとるときの参考にする。

【事務局】 ちなみに、「浦河のことが『好き』と答える人の割合」が34%というのは、「好き」「どちらかといえば好き」があるが、純粹に「好き」と答えた人の割合が34%で、「どちらかといえば好き」を合わせると70%以上の人々が『好き』と答えている。

【A委員】 対象は？

- 【事務局】 抽出によるアンケートで、一般の世帯、子育て世帯、転入者、転出者、高校生が対象
- 【A委員】 資料1ではUターン希望の高校生が4割と書いていて、ここでは3割弱だが。
- 【事務局】 ここには、転出者も含んでいる。浦河から転出した人にアンケートをとって、「浦河にまたUターンしたいか」という設問項目も。
- 【A委員】 いろいろデータが錯綜するというか、本当にUターンしたい人が何割なんだ？という、その都度、対象者を書いてもらえればわかりやすい。
- 逆に言うと、「高校生4割」いたのに、転出者を入れたら下がるということは、転出者はあまり戻りたくないと思っているということか。
- 【事務局】 仕事で浦河に来て転勤された方は、高校生と比べて浦河にはもう戻りたくないと答える人の割合が多い。高校生はこっちが地元なので戻ってきたいというのがある。
- 【A委員】 高校生はやっぱり郷土愛というか、自分の土地に対する思いがあると思うが、ビジネスで数年いた人が出ていって、また戻りたいかと言うと。それをまとめて書くべきではない。
- 【事務局】 高校生に限定した方がいいですか？
- 【A委員】 その方がデータとしていいのでは。
- 【B委員】 施策①「ふるさと」をつくる人材の育成の部分は教育に限定されるのか、人材育成まで含めた部分なのか。教育だけに限らないのであれば、人材育成全般、浦河にいて活躍してほしい人材、郷土愛をもった人を人材育成するのであれば、この中には、高校までの教育だけではなく、日赤の看護学校に対するアプローチとか連携も含まれる。
- 大学卒業後、戻るための施策を打つだとか、そういったことも人材育成に入ってくる。教育だけに限らず、人材育成まで広げて、大学卒業後に戻ってくるだとか、一回就職して戻ってくるだとか、農業研修やってきた人をどうするだとか、看護学生に残ってもらうとか、そういったこともあってもいいのかなと思う。目標値もそういうことを含めて、それを実測できるので、大学卒業後のUターン者数、Iターン者数だとか、看護学校卒業後に定着した人の数など実測できると思う。
- 【会 長】 たしかに教育だけではなく、人材育成という部分も含まれていいという思いもある。
- 【事務局】 このようなフォームでいきたいが、よろしいか？
- 現況と課題がきて、それからめざす姿を入れ、今後の方向性を書いて、めざす指標をつくって見える化するという考え方のフレームで。今回は、事前に送りこんでみなさんに読んでいただいてチェックできるような体制にしたい。
- 【B委員】 フォームだが、現況と課題の部分について、ネガティブなものポジティブなものを分けて書くとわかりやすいと思うが。例えば教育だと、ポジティブなものは、浦河高校が総合学科になっているとか、ネガティブな部分だと人口流出など。アンケートの部分ではUターンしたい人が多いとか。
- 【事務局】 現況と課題のところを？
- 【A委員】 分けられますかね？
- 【B委員】 現況、資源、課題でもいいかもしれない。

4. 閉 会